

地 水 火 風

**恒
牧野**

の山頂付近である」とも
あつて、救助活動は難航
した。

自衛隊、消防、警察の
救助隊が合計1000人
規模で、連日、ヘリコ
プターと陸路で現場に向
かつたが、火山活動活発
化の兆候があると撤収せ
た。このため、これまで
の大災害でも、部隊の活
動エリアを分けるなどし
て、できるだけ独立し、
かつ効率的に活動できる
よう調整するのが現地本
部の役割の一つとされて
いた。

ところが、今回は、自
衛隊のヘリに消防と警察
が協力して被災者を運び
てエンストする可能性が
あるので、フィルターを
つけて山小屋に避難でき
た人や直接下山に成功し
た人は助かつたが、生死
を分けたのは運としか言
いようがないようだ。

機動調査班(JMA-M)
OT)、国土交通省緊急災
害対策派遣隊(TEC-FORCE)
など、頼もしい名前の派遣部隊が現
地に派遣されて活躍した
ところに、観測された
情報に登山者が容易にア
クセスできるようなシステムを作り、後は自己責任で登る、ということだ
ろう。

火山に登るには、それ
め、関係省庁も緊急対応
部隊を養成して対応する
なりの装備と情報収集と
覚悟が必要だ、ということ
とを肝に銘じたい。

化に結びつけてほしいも
のだと、今回の御嶽山噴火は、
火は安全に見えてもい
つ牙を剥くかわからな
い、といふことを改めて
教えた。予知がで
きれば」とは誰しも思う
ところだが、十分な観測
網を強化するには大変な
基に活動する、というの
は、ある意味で当然だが、
費用がかかるし、観測デ
ータがあつても常に予知
ができるほどの科学的知
見は蓄積されていないと
いつことで、現実的には
ないようだ。

きれず、使えるヘリが限
られた、という話も聞く。
救助関係者の協力ぶり
だ。救助にあたる自衛隊、
消防、警察の三機関は、
それぞれ特有の危険に立
ち向かうように組織や命
令系統ができているた
め、共同作業には向かな
い、というのが定説だつ
た。このため、これまで
の大災害でも、部隊の活
動エリアを分けるなどし
て、できるだけ独立し、
かつ効率的に活動できる
よう調整するのが現地本
部の役割の一つとされて
いた。

ところが、今回は、自
衛隊のヘリに消防と警察
が協力して被災者を運び
てエンストする可能性が
あるので、フィルターを
つけて山小屋に避難でき
た人や直接下山に成功し
た人は助かつたが、生死
を分けたのは運としか言
いようがないようだ。

機動調査班(JMA-M)
OT)、国土交通省緊急災
害対策派遣隊(TEC-FORCE)
など、頼もしい名前の派遣部隊が現
地に派遣されて活躍した
ところに、観測された
情報に登山者が容易にア
クセスできるようなシステムを作り、後は自己責任で登る、ということだ
ろう。

火山に登るには、それ
め、関係省庁も緊急対応
部隊を養成して対応する
なりの装備と情報収集と
覚悟が必要だ、ということ
とを肝に銘じたい。

木曾の御嶽山が突然噴
火し、多数の登山者が亡
くなれた。日本人には
昔からなじみ深く、さし
て危険とも思えなかつた
御嶽山の突然の変貌ぶり
に、改めて自然の怖さを
思い知らされた。今回、
この御嶽山の噴火と火山
災害について考えてみた
い。

【御嶽山の噴火】
9月27日11時52分頃、
長野県と岐阜県にまたが
る御嶽山が突然噴火し
た。火碎流が南北方向に
3km以上流下する一方、
噴煙は東に流れ、その高
さは火口上約7000mに
達した。

噴火は剣ヶ峰山頂の南
西側の火口列から發生

し、大きな噴石が火口列
から1kmの範囲に飛散し
た。噴火 자체は、マグマ
が直接噴出する「マグマ
噴火」ではなく、マグマに
よつて加熱された水が水
蒸気となつて噴出する「水蒸気噴火」で、この
ため、火碎流は発生した
のが救いだつた。

御嶽山は、1979年に
有史後初めて噴火し
た。子供の頃に「死火山」
と習つた御嶽山が活火山
だったことに驚いた記憶
がある。

この噴火がきっかけで
火山学上の定義が変わ
り、「死火山」「休火山」
という概念がなくなつた
といふ。この噴火が秋晴れの土
曜日の昼食時だったた
め、山頂付近は多くの登
山者が賑わつていた。そ
の間に突然噴火が始まつた
御嶽山では1991年

年、2007年にもこく
から1kmの範囲に飛散し
た。噴火 자체は、マグマ
が、今回の噴火は遙かに
大きく、1979年並み
だといふことだ。

9月27日の噴火以降、
山頂火口から噴煙が立ち
上り、火山性地震が継続
しているため、今後も同
程度の噴火が発生し火碎
流を伴う可能性もある
が、大規模噴火に繋がる
兆候は認められない、と
いうのが、28日の火山噴
火予知連絡会拡大幹事会
の見解である。

この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【救助が難航】
噴煙や火山性微動が続
き、現場が3000m級
でフィルターでは除去し
て各機関はそんなへりを
敬意を捧げたい。

この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。

【各機関の共同作業】
この噴火がきつかけで
て倒れたところに火山灰
や噴石が降り注いで窒息
した人、視界を奪われた
中で避難しようとして倒
れたり滑落したりして火
山灰や火碎流に埋もれた
人など、47名の方が亡
くなり、69名の方が負傷
した(うち重傷者は29
名)。